

別記様式第1号（第5条関係）

当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会 開催結果の要旨

会議名	第1回 当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会		
日時	平成26年9月22日（月） 午後1時30分～4時10分	場所	当尾の郷会館2階 「多目的教室」
出席者	委員	<p>■多田 実（会長）、■石井 好二郎（副会長） ■前田 義之、□吉田 修史、■植村 海宥、■山本 憲市、 ■倉山 美幸、■井上 成美（代理出席：森田 陽子）、 ■西村 正子、■浦辻 長次、■福岡 正司、 ■沢尾 俊和（代理出席：浦 一良） ※□：欠席者</p>	
	その他出席者		
	事務局	駒野部長、前川課長、辻主幹、西村係長	
議題	<p>1. 開会 2. 委員紹介 3. 市長挨拶 4. 会長及び副会長の選出 5. 議事 （1）報告事項 ・委員会の役割及び運営（資料1、別紙1、別紙2） （2）協議事項 ・当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化事業の概要（資料2） 6. その他 7. 現地視察（別紙3） 8. 閉会</p>		
審議結果要旨	<p>1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 2. 委員紹介 委嘱状を交付し委員名簿により委員紹介を行った。 3. 市長挨拶 委員会に先立ち河井市長から挨拶があった。 4. 会長及び副会長の選出 多田委員を会長に、石井委員を副会長に選出した。 5. 議事 （1）報告事項 ・委員会の役割及び運営（資料1、別紙1、別紙2） 事務局より、資料1・別紙1・別紙2を基に説明し質疑応答を行った。 （2）協議事項</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化事業の概要（資料2） 事務局より、資料2を基に説明し意見交換および質疑応答を行った。 6. その他 次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。 7. 現地視察（別紙3） 別紙3を基に、当尾地域を車窓から視察し、途中、岩船寺に立ち寄った。 8. 閉会
<p style="text-align: center;">審議経過要旨</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 審議結果要旨のとおり。 2. 委員紹介 審議結果要旨のとおり。 3. 市長挨拶 審議結果要旨のとおり。 4. 会長及び副会長の選出 審議結果要旨のとおり。 5. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の役割及び運営（資料1、別紙1、別紙2） 審議結果要旨のとおり。 (2) 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化事業の概要（資料2） 審議結果要旨のとおり。 主な意見・質疑等は次のとおり。 (○…質疑・意見、→…質疑に対する返答) ○近年トレイルランニングを楽しむ人が増えている。歩くことと走ることは共通する部分もあり、走ると移動距離が長くなるため、様々な道を見出すことにつながるのではないかと。当尾地域は環境的にもすばらしい。 マナーの問題もあるが、トレイルランニングをしている方は、現在のところ、歩行者・ハイカーとすれ違う場合、待つというルールを持っている。マナーについても学べる入門的な場所としての活用も可能である。 ○観光は南部地域が中心、観光にも二面性があり、来訪者のモラルの問題がある。現在の地域での観光や現状はどうなっているのか。 →数値的には毎年観光入込客数調査を行っている。市内では年間10万人

を超える施設は2箇所しかなく、そのひとつが浄瑠璃寺である。また石仏の道についても、6万6千人となっており、6万人を超える箇所というのは、市内でも多くないのが現状となっている。なお、今回の委員には、日常的に地域を見ておられる方もいるので、現状については、そちらからもお願いしたい。

○旅行会社からの問い合わせは多い、近年は参加者が高齢化しており、下るコースを望まれている。また木津川市に来ていただいているので、当尾プラスどこかというようなプランも提案している。

トレイルランニングのように、若い人が来てくれることは活気が生まれる。南部地域だけでなく、北部も魅力があるものの、交通が不便であるので、走って移動することはおもしろい。

石仏コースも、昔と違い、整備が難しく危険で制限をしているところもあり、復元できればと思う。

○トレイルランニングの上級者は、自分たちで道を開拓していくこともあり、過去の道を蘇らすきっかけにもなると考える。

○モラルの問題に困っている地域もある。道端にゴミを捨てるマナーの悪い人もおり、地域がゴミばかりになるのは価値が下がっていく。また、道の草刈など、対策方法を考えないと、来る人にも申し訳ない。

○人も多くなれば、苦情も多くなる。草刈によるコース整備も様々な声を聞いている。

行政支援もあるが、十分ではなく、現実的には、個人的に整備しているケースもある。

また、人が来ると食事も重要視される。一方で、食べることでゴミやトイレの課題が出てくる。

現在、観光は南部地域中心であるが、当尾全体のブランドを立ち上げるべきではないか。

○ゴミの問題は、様々なところで課題になっているが、音楽イベントでもゴミ問題が起こり、出演者が来場者に訴えたことにより、解決されたこともある。何らかの仕掛けがあれば、解決の糸口につながる。

○ウォーキングの目的のひとつに、地域の良さを知ってもらうことがある。そのためには拠点が必要であり、例えば加茂駅を拠点として、バスを使ったりしながら、様々なコースを作るのもひとつである。ただし、コースを簡単に案内できる常駐スタッフは必要であるが、案内の際、ゴミ袋を渡すことで、ゴミの問題は変化してくるはずである。

ウォーキング客が、勝手に来て歩いてくださいでは厳しい、案内サインと地図と拠点が大事である。それに、地元の産物として、おにぎりでもウォーキングをする方は喜ばれる。

○中部地域は生活の場所のイメージがある。空き家も出て来ている。当尾の活性化策としてウォーキングはいいが、定住ということにはつながらないと思う。

田舎の警戒心は強いので、地元の心の問題をクリアしていくことも必要である。何故ウォーキングなのか。

○当尾地域の活性化には、色んなことがあっていいと思うが、まず、地域が喜んでくれることが第一、課題が解決し結果が出れば事業にも参画してくれるようになる。地域が良くなれないといけない。いろいろなアイデアを出して、課題と結びつけていけばいい。

→ウォーキングはわかりやすい指標のひとつであり、目的ではない。ひとつの手段である。地域に喜んでもらうことは、別の手法があればシフトしていくことで、新たな市の魅力にもつながってほしい。地元の方が楽しんでいるものでないと長くは続かない。今後も議論を重ねていきたい。

○ウォーキングは単純に歩くことであり、地元の方にとっても、健康維持につながるものである。地元の方が歩くことで、何かポイント制など、歩くことが楽しくなる仕組みがあってもいいのでは。地元の方が歩けば、結果的に整備にもつながってくる。

○イギリスで発表された誌面で、巨大な日の丸を子どもが担いでいる絵がある。高齢化社会は世界でも日本がトップであり、世界に例を見ることができないものである。

様々な取組において、人はいきなり参加はせず、徐々に広がっていくものである。

○道の駅のような形や、当尾の郷会館の活用もしてほしい。

○今後の木津川アートでの活用等はどうか。

→木津川アートは市内を順次回っていき、魅力を再発見していただくものである。しかし、制作の場所について、作家から声を聞いたこともあるので、空いているスペースと上手くコラボできることが望ましい。

○空き家が使えるようになれば、公的施設の整備負担を抑えることもできる。

最近、工場だった場所にアトリエを構えた作家が、南部地域でおり、もっと芸術家が来てほしいということも聞く。入居できる最低限の整備を行政がして、つなげていくという姿勢も大事である。

	<p>○空き家対策は行政が関わって、何か考えることはできないか。</p> <p>6. その他 審議結果要旨のとおり。</p> <p>7. 現地視察 (別紙3) 審議結果要旨のとおり。</p> <p>8. 閉会</p>
その他特記事項	傍聴者 2人